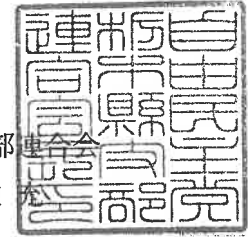


豚熱及び鳥インフルエンザ対策に係る緊急要望書

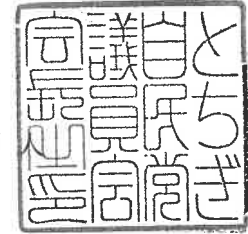
令和4年5月25日

栃木県知事 福田 富一 様

自由民主党栃木県支部
会長 茂木 敏



とちぎ自民党議員会
会長 螺良 昭



本県は、乳用牛を中心に、豚、鶏の飼養が盛んであり、畜産の産出額が農業産出額全体の約4割超を占める畜産県である。

しかしながら、近年国内で発生が続いている豚熱や鳥インフルエンザについては、県内の農場においても、令和2年度に鳥インフルエンザが1例、令和3年度に豚熱が3例発生するなど、農家にとって大きな脅威となっている。

ひとたび家畜伝染病が発生すると、発生農場で飼養している家畜をすべて殺処分しなければならず、多大な費用や労力等を要することはもとより、農家の経営、さらには鶏卵や鶏肉、豚肉の供給や流通に甚大な影響が生じることになる。

このような中、先頃、JAグループ栃木農協農政対策栃木県本部から自由民主党栃木県支部連合会長宛て「家畜防疫対策の強化」について、緊急要請を受けたところであり、栃木県支部連合会並びにとちぎ自民党議員会としては、これを重く受け止め、豚熱、鳥インフルエンザの再発防止を図るため、下記のとおり緊急要望するものである。

記

- 1 豚熱、鳥インフルエンザの発生予防を図るため、農家に対し飼養衛生管理基準の遵守指導を強化するとともに、個々の農場の状況に応じて、農場内にウイルスを侵入させないための具体的な改善方法を提案するなど、きめ細かな指導を行うこと。
- 2 豚熱や鳥インフルエンザが農場内へ侵入する経路等の分析結果などを検証した上で、万全な防疫対策を講じること。
- 3 特に、豚熱については、再発を防止するため、切れ目のないワクチン接種を継続するほか、引き続き猟友会等の関係者と連携し野生イノシシの捕獲を強化するとともに、経口ワクチンの散布を効果的に実施すること。

以上